

会 議 録				
平成 19 年度第 3 回 社会教育委員の会議	日 時	平成 19 年 6 月 25 日 (月) 午後 2 時 00 分～4 時 00 分	場 所	小金井市役所第二庁舎 8 0 1 会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出席者	委員	福島議長、彦坂副議長、井土、田尻、兼森、武田、田中、藤川、堀井各委員 (欠席) 君塚委員		
	その他	谷垣教育長、石川生涯学習部長、伊藤生涯学習課長、中嶋公民館長、田中図書館長、林スポーツ振興課長、		
	事務局	木村生涯学習係主事、		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1. 報告事項				
(1) 第 4 回小委員会について				
(2) 議会報告				
(3) その他				
2. 協議事項				
(1) 教育委員との懇談会について				
(2) その他				
1. 報告事項				
(1) 第 4 回小委員会について				
(伊藤生涯学習課長)				
6 月 2 2 日に第 4 回小委員会を開催した。君塚委員作成の資料 (別紙 報告書構成案[2]) に基づき、小委員会委員で校正等を行った。9 ページのステップについてどう考えるのか、という点が 1 つの大きな論点だった。結論としては、第 1 ステップを踏まなければ第 2 ステップに進めないということではなく、随時進められるものから進めていくという形をとる。 (兼森委員)				
5 月の小委員会で課題が出され、各委員から提出されたものを君塚委員がこの構成案にまとめてくれた。その後、6 月 2 2 日の小委員会で意見交換等を行っているので、配布した資料にさらに変更が加わり、よりまとまったものになっている。小委員会の委員にとってヒントになるのではないかと思うので、田尻委員から何かひと言いただければありがたい。 (田尻委員)				
現在の学校の現状について、本校の現状を中心にお話したい。学校としては、現状を考えると、学校だけで子どもたちの健全育成ができるとは思っていない。保護者・地域等との連携が円滑に進んで初めて子どもたちが健やかに成長すると考えている。できるだけ多くの大				

人の目で、時には厳しく、時には温かく見守っていくことが必要。学校支援ボランティアを本校で立ち上げて4年目になるが、学習支援や図書室でのボランティア・学生ボランティアによる個別指導と国際理解教育等を中心に、昨年度は延べ800名程度の方がボランティアとして学校教育に関わっている。これらの活動を通じた成果として、子どもが素直になる・人との関わり方を学ぶ・教育の中身が高まる等があげられる。このような様子を見ていると、外部からのゲストティーチャー・アシスタントティーチャーとの係わりは子どもたちの成長に欠かせないものであると感じる。教員にとっても刺激となり、良い機会になっている。

現在、ボランティア等とのコーディネートは学校独自で行っているが、情報不足もあり限界がある。市全体で人材バンクを立ち上げ、学校の必要に応じて支援してもらえ体制を作ってもらいたい。地域教育会議の構想の中にも位置付けられているので実現すると良い。

現在、第四小学校では、保護者の協力を得て生活科の授業でのまち探検やよもぎ団子作り、読み聞かせ、専門的な知識を持つ保護者や地域の方の協力を得ながら授業を行っている。また、地域のお年寄りに協力していただき、1年生に昔遊びを教えていただいている。これらを通じて、子どもたちは普段の学校生活の中では味わえないものを体験できている。今後生きていくうえで役立つことを経験できる場を、いかに与えてあげられるかが重要であると感じる。

このような活動を行っていくことで、市全体が活性化していくのではないかな。最終的には「地域の学校」という意識が生まれてくるのではないかな。

(藤川委員)

第4小学校では誰が中心となって地域とのやり取りを行っているのか。

(田尻委員)

1・2年目は私が中心となって行った。その後、副校長が行い、最近は各担任が自らコーディネーターの役割を担っている。学生のボランティアについては、指導室が人材バンクになって学芸大学の学生を中心に紹介してもらっているが、それだけでは足りず、学生を各学校で奪い合っているような状態。個々の学校でも学生の友人や教授を通じて情報を得る努力をしている。

(堀井委員)

外部講師等については、カリキュラム化されて、毎年行えるものになっているのか。また、外部講師をよんで特別授業等を行う際、他のクラスや学年とのつながりはどうなっているのか。

(田尻委員)

前年に行ってよかったカリキュラムについては、翌年につなげていくようにしている。また、他学年や他クラスとのかかわりであるが、本来であれば一クラスごとに授業が行えるのが理想であるが、予算等の関係もあり、1学年ないし2学年が合同で行うことが多い。留学

生を通じての国際理解教育は、留学生との触れ合いが希薄になってしまうのを防ぐためクラス単位で行っている。クラス単位で行うほうがよいものと学年単位のほうがよいものがある。

(堀井委員)

単発のイベント的な要素が多いのか。イベント的なものだと、授業内に取り込むとあまり多くなりすぎても大変ではないかと思うがどうか。

(田尻委員)

単発のものも多くなるが、3年生の習字の授業に定期的に3～4人程度の授業支援ボランティアに入ってもらうなど、日常的な支援もある。

(兼森委員)

第1小学校では、新1年生の給食補助を行った。図書ボランティアも、PTAだけでなく地域の方も登録をして、定例的に本の修理や読み聞かせ等を行っている。地域連絡会でも地域に向けての呼びかけをしており、学校のニーズと地域の力の出会うところで地道に取り組んでいる。

(田尻委員)

学校支援に入っただくことは、保護者や地域の方に実際に学校に来て、子どもたちや学校の様子を見ていただき、学校の現状を理解していただくよい機会にもなると思う。

(福島委員)

学校に入っいきづらいつ感じる部分もあるが、どのようなときに行ったら一番よいか。

(田尻委員)

本校ではいつでも来てくださいと言っている。土曜参観や学校公開日に関わらず、日常を見てもらうことも大切。

(堀井委員)

外部との交渉を担当していた先生が異動すると、それまでの成果が受け継がれなくなってしまうのではないかと思うが、やはりコーディネート機能を持つ組織が外にあったほうがよいと感じるか。

(田尻委員)

単発で終わってしまうと学校の財産になっていかない。いかに継続させていくかが重要だ。現状では、学校でコーディネートした人材はその学校でしか活用できない。そういった意味では市がコーディネートしてくれれば、もっと全市的に活用ができるのではないか。

(生涯学習課長)

2年前に生涯学習ボランティア制度をつくったが、現在動いていない。今後調整をとり、できるだけ早く対応を考えていきたい。

(彦坂委員)

学校間で情報を提供しあう組織はあるのか。

(田尻委員)

小中連携活動というのが年に2回あり、その中で情報交換を行っているが、学校支援・学習支援についての情報交換というのはあまりあがってこない。教務主任会や生活指導主任会といった会議で多少情報交換はあるが、活発な情報交換がされて事業が拡大するところまでいっていない。

(田中委員)

学生ボランティアによる個別指導というのはどのようなものを行っているのか。また、学生にとって、このような学校支援のボランティアは単位となっているのか。

(田尻委員)

個別指導は、例えば学校や集団になじめない子どもの横につき、様子を見たり声掛けをしたりする。学生については、学校によっては単位化されているところもあるようだ。学芸大学の学生は報告書等を書いている様子がないことから、単位にはなっていないのではないかと思う。学生は大学3・4年生が多い。教育実習は3週間程度で終了してしまうが、年間を通して学生ボランティアとして活動してもらおうと子どもの変容が見える。そうすると児童理解も深まり、教えるという仕事がどのようなものかよく分かるのではないか。

(2) 議会報告

(石川生涯学習部長)

平成19年第二回定例会の生涯学習部関係の一般質問について。

- ・市のテニスコート内の緑地にゲートボール場を設置しないか。

近隣住民との関係でできた緑地であり、近隣の方々の意向に沿った形の協定書も結ばれている。砂塵や騒音を防止するため緑地化しているものであるため、近隣マンションの管理組合等と話し合い、合意が得られない限りゲートボール場の設置は難しい。

- ・小金井市施設の危機管理について

総合体育館のプールの天井が落下したということが過去にあったが、そのような教訓は今日に活かされているのか、施設の危機管理体制を検証したいとの質問だった。生涯学習部の施設に関しては、総合体育館の外タイルが一部落下している状況が見受けられる。全体の補修計画を立てながら重要度に応じて補修をしていくが、当面は危険回避のための三角コーン等を設置し、応急の措置をとっていく。総合体育館そのものの大規模改修の調査が平成22年度に予定されているので、それを前倒しして行うかを含め、今後検討していく。

- ・小金井桜の里帰りイベントについて

大正10年に玉川上水の桜の苗木を岩手県の北上市に送っており、移植されている。玉川上水本体の桜が傷んできており、補植をしなければならないので、今年の11月に北上市から桜の里帰りをさせる計画がある。ただ、文化財指定のものなので厳格な条件の基に管理さ

れており、審議会等に諮るなど様々な条件があるため、イベントがどのようにできるかはこれから東京都を通じて可能性を探っていく。これまでも小金井市の中では市民団体が桜関係の団体が中心となって取り組んできているので、教育委員会としてもできる限り協力していきたい。

- ・青少年のスポーツ広場設置に関する陳情書

厚生文教委員会に陳情が付託され、審議された。青少年のスポーツに限られた学校スペース等を使用しながら活動しているという実態から、都立小金井公園内にある生産緑地に青少年のためのスポーツ広場を作りたいという要望があった。管轄は東京都の武蔵野西部公園緑地事務所であるので状況を確認した。農地の境という関係もあるため、どう調整していくかが課題。今後の経過を注視していきたい。結果については継続審議となった。

(3) その他

(中嶋公民館長)

- ・第19期小金井市公民館企画実行委員の補充選出について

補充について、本館2人、貫井南分館1人、東分館1人、緑分館2人、合計6人（本館5月31日辞職1人含む）の補充が必要であった。立候補届・推薦書について、6人からの提出があり、補充者同数となり、6月19日（火）午後2時に公民館本館学習室で候補者調整会を実施し6人を決定した。7月の第7回教育委員会定例会に同意を求める議案を提出する。詳しくは次回に委員名簿を配付する。

(伊藤生涯学習課長)

- ・放課後子ども教室の進捗状況

6月に実施した教室として、おやじの会が主催した第一小学校での校庭遊びと、第二小学校での武蔵乃桜太鼓、第一中学校では毎週土曜日にふじがね教室、東小学校での工作教室からくりおもちゃ、学芸大学幼稚園隣と武蔵野公園でプレイパークを実施している。その他にも緑中学校での読書活動や、二小・三小・南小を中心とした体操教室等が行われる予定である。それ以外にもイベント的な内容のものが約20提案されているので、今後実施していくことになる。本町小学校で定例的に行う予定の放課後子ども教室は、6月末を予定していたが、ノロウィルス等の関係があり実施が若干遅れている。校長先生やPTAの方と協議する中で、一部の有志による安全管理員ではなく、学校全体の保護者の協力を得ながら進めていくのがよいだろうという意見があったので、スタートが遅くなっても保護者の方に周知をした上で取り組んでいきたい。実施の方式は、直営方式で行う方向で話が進んでいたが、東京都との調整の結果、市に実行委員会を立ち上げてそこを受託者とする委託方式で実施しても構わないということになったため実行委員会を作ってやっていきたい。

・コミュニティースクールの進捗状況

まちづくり交付金を活用して実施しており、実施にあたっては社会福祉協議会と NPO 法人カッセ小金井と協力し、6月から9月までの間に約38講座を実施する。無料の講座を3講座ほど設けている。その後3月までの間に3ヶ月単位くらいで2回ほど講座を募集していきたい。

(田中図書館長)

・蔵書点検に伴う特別休館について

6月1日から11日までの間に図書館本館、1日と2日に西之台会館図書室、3日と4日に移動図書館、11日から15日にかけて東分室と緑分室について蔵書点検を実施した。全蔵書458,768冊のうち、貸出しを除いた資料全てを点検した。点検冊数は395,326冊で、所在が不明な図書は1,848冊、不明図書率は0.4%。前回平成17年に実施した際は、全蔵書440,395冊に対し不明図書2,803冊で不明図書率は0.63%だった。不明図書率については改善している。

・デージー編集初心者講習会の報告

図書館では視覚に障害のある方に対して、録音図書による提供を実施している。現在ではCD-ROMに図書情報を集録したデージー図書が注目されている。今後デージー図書が主流となってくることが考えられるため、これによりデージー編集初心者講習会を6月13日から15日の10時から15時まで3日間、日頃録音朗読にご協力を頂いている対面朗読の会の会員10名と図書館のハンディキャップサービス担当の職員3名が受講した。来年度はレベルアップ講習と、未受講者に対する同一講習会が実施できたらと考えている。

・東京農工大学小金井図書館との共同事業の実施について

図書館では平成18年2月19日東京農工大学小金井図書館と図書館の利用に関わる相互協力を結んでいる。その一環として共同事業の実施がある。昨年は講演会と子どもインターネット教室を開催した。今年も同様に子どもインターネット教室を開催する。開催日は8月4～6日、内容は検索エンジン Google の使い方やホームページ制作、小金井市立図書館のインターネット検索の仕方等になる予定。

(伊藤生涯学習課長)

ホームページに「山なみ展望」という新しいコンテンツを追加した。市役所第二庁舎西側の山並みの写真に、山の名前と標高を記載したものを載せているのでぜひご覧ください。

(林スポーツ振興課長)

今年からの試みで、体育指導員協議会が中高齢者を対象にした体力測定を第1小学校で行っている。参加人数は35人程度だった。今後も行っていきたいという報告を受けている。

(福島委員)

公民館の人権教育事業について、その後の経過をお聞きしたい。

(石川生涯学習部長)

平成19年文部科学省委託事業の人権教育推進のための調査研究事業モデル事業実施計画書について、企画実行委員から子どもの人権関係の計画を提出していただいていた。事業の実施にあたり調査研究委員会の立ち上げとモデル事業の実施という二つの要件があり、当初公民館の主催講座として行えるものと考えていたようだが、教育委員会等行政の関係者や関係する課が主導して実施をし、その中に学識経験者と社会教育関係者が入る等、想定していた以上に大掛かりな組織をもって進めるものであると判明した。このことがわかったのが東京都に計画書を提出してしまった後であったため、取り下げという形になった。このような結果になってしまった原因として、公民館事業は自主性・自立性・独立性を持った機関として、行政管理の影響をほとんど受けることなく、自由な学びあいの場であるという認識不足があったということ、新たな事業を計画する場合には、その事業内容について行政内部で十分な検討と協議を尽くし職員間の意思疎通を図った上で、然るべき決裁を受けて実施していなかったということ、事業を企画する際には職員は無論のこと、市民との間で忌憚のない意見交換をしながら実現可能な方策を模索する検討が不十分であったことが挙げられる。事業の企画をされた方々とも話し合い、せっきくの機会を捉えた事業であるので、なるべく公民館の主催講座の中で実現できるよう整理をしているところである。

(堀井委員)

公民館の自主性や自由な学びの場であるという認識が不足していたという反省が述べられていたが、どのように認識していたのか。

(石川生涯学習部長)

職員間で話し合いがしっかりとなされていたのかという疑問点もある。事業内容を熟知せずに担当者の意思で動いてしまった部分もあったのかと思う。今回は行政が主体的に関わっていく内容のものであったので、公民館の主催事業とは異なるという理解が不足していた。

(福島委員)

今後、公民館の中でこんなものに手をあげたらいいのではないかという案がでてきたときは、どのような手順を踏めばよいのか。

(石川生涯学習部長)

基本的には、公民館の主催事業をしっかりと作り、その枠の中で実施していく。文科省の委託事業になると、教育委員会等行政側の意思を反映させながら行っていく調査研究活動になってくるので、公民館の主催事業とは異なってくると認識している。今後このような事業が降りてきたときには、公民館の事業として成り立つのかをしっかりと勘案して決めていく必要がある。

2. 協議事項

(1) 教育委員との懇談会について

(伊藤生涯学習部長)

教育委員との懇談会について、8月14日でお盆にかかってしまうので8月28日(火)の教育委員会終了後でどうか。時間については教育委員会終了後の2時30分くらいから開始の予定。

[特に異論なく了承された]

(福島委員)

それでは、28日の午後2時30分から行いたい。教育委員との懇談会で話し合いたい内容について何かあるか。

(兼森委員)

今回の提言「地域教育会議」について、研究の成果等をご報告したい。

(堀井委員)

教育委員の方にも提言に目を通して頂き、ご意見をお聞きできることを期待します。

以 上